

令和6年度

入学者選拔要項



北海道公立大学法人

札幌医科大学

医学部・保健医療学部

目 次

建学の精神・理念・アドミッションポリシー	1
I 募集人員・日程等	3
1 募集人員	3
2 日程	3
3 学生募集要項の配布日	3
II 医学部 医学科 出願資格・選抜方法等	4
1 一般選抜	4
2 学校推薦型選抜	8
III 保健医療学部 看護学科 出願資格・選抜方法等	12
1 一般選抜	12
2 学校推薦型選抜	15
IV 保健医療学部 理学療法学科・作業療法学科 出願資格・選抜方法等	17
1 一般選抜	17
2 学校推薦型選抜	21
V 学生募集要項の請求先及び請求方法	23
VI 私費外国人留学生入試	24
VII 令和7年度札幌医科大学入学者選抜における利用教科・科目について(予告)	26

建学の精神・理念・アドミッションポリシー

北海道が設立した北海道公立大学法人 札幌医科大学は、北海道の地域医療に貢献する医療人（医師、看護師、理学療法士、作業療法士）を育成するという北海道民の強い要請に応え、次のとおり建学の精神及び理念を掲げています。

【建学の精神】

- 一、進取の精神と自由闊達な気風
- 一、医学・医療の攻究と地域医療への貢献

【理 念】最高レベルの医科大学を目指します

- 人間性豊かな医療人の育成に努めます
- 道民の皆様に対する医療サービスの向上に邁進します
- 国際的・先端的な研究を進めます

【アドミッションポリシー】

札幌医科大学では、カリキュラムに沿った学修によってディプロマ・ポリシーに示す水準を満たすことができる学生を求めています。そのため、高い基礎学力、文化や社会に関する基礎知識、基本的なコミュニケーション能力と協調性、自己教育の意欲と習慣を備えた学生を受け入れます。

【医学部】

医学部は、北海道民の健康と医療を守り、地域や国際医療に貢献できる医師及び国際的・先端的の研究を通じて世界に貢献できる研究医を育てます。そのため、次のような資質を有する学生を求めます。

1. 命を尊ぶ心を持ち、病める人を救う情熱のある人
2. 他者を理解しようという意欲と奉仕の精神、倫理観を持っている人
3. 社会生活で守らなければならない法律や道徳に従い、良識ある行動ができる人
4. 医学・医療を学ぶにふさわしいコミュニケーション能力、協調性及び想像力を持っている人
5. 地域社会への興味・関心を持ち、北海道に貢献する意志を持つ人
6. 国際的視野で考え行動し、科学的探究心と創造力を持って生涯にわたって学修に取り組む能力を持っている人

○入学までに身につけておいてほしいこと

1. 高等学校で学ぶ諸教科に関する高い基礎学力
 - 1) 医学を学習するための基礎学力: 生命科学としての医学を学習するにあたって、生物、化学、物理及び数学の基礎学力は必須です。さらに、医療と医学研究の場では、人との交流が基盤となります。それを支えるコミュニケーション能力を発揮するために、論理的に思考し、相手に伝えることのできる正確な日本語と国際的視野で考え行動するための英語の学力が重要です。
 - 2) 人類の文化や自然、社会に関する幅広い基礎知識: 医学研究と医療の実践には、人文社会科学の視点から健康・疾病を理解することが必要です。そのために、自然科学のほか、人文社会科学など幅広い領域に関する基礎知識が不可欠です。
2. 自ら課題を探求し、問題を解決する学習習慣
医師には生涯にわたる自己研鑽が求められます。自ら課題を抽出し、問題点・疑問点を解決していく積極的な学習姿勢が必要です。
3. 自主的、協調的な態度と行動
チーム医療なしには医療は実践できません。医師は医療チームの一員として、他者と連携・協調して行動することが求められます。
4. 健康な生活を送るための基本的生活習慣
人々の健康を守り、病に立ち向かう医師となるための精神力と体力が必要です。まず自分の健康に心がけ、基本的な生活習慣を身につけていることが不可欠です。

【保健医療学部】

札幌医科大学保健医療学部は、札幌医科大学の建学の精神、理念に基づき、看護師・理学療法士・作業療法士に求められる実践能力やそれぞれの学問分野の発展に寄与する研究能力の基礎・基本を育むことを目的に、ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）、カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施方針）に基づく教育を行っています。このような教育を受けるための条件として、以下に掲げる能力・資質を具えた学生を受け入れます。

○求める学生像

【知識・技能】

1. 高等学校の教育課程で学ぶ知識・技能を幅広く、かつ高いレベルで有している

【思考力・判断力・表現力】

2. 社会の様々な課題について、知識や情報をもとに筋道を立てて論理的に思考し、自分の言葉で表現できる
3. 知的探求心をもって広く社会に目を向け、柔軟な発想で物ごとをとらえることができる

【主体性をもって多様な人々と協同して学ぶ態度】

4. 良心と社会規範にしたがって良識ある行動をとることができる
5. 人々との交流を大切にし、常に温かな配慮をもって他者と接することができる
6. 自らの成長のために粘り強く物ごとに取り組むことができる

○入学前に身につけておくことが期待されるもの

1. 高等学校で学ぶ諸教科に関する高い基礎学力
 - 1) 人類の文化や自然、社会に関する幅広い基礎学力
保健・医療・福祉は人間を対象に社会の中で営まれる実践です。そのために、文化や自然、社会に関する偏りのない基礎知識が不可欠です。
 - 2) 人々との交流を深め、論理的に思考し表現するための基礎学力
保健・医療・福祉の実践は人々との交流を基盤とします。また、物ごとを多面的に捉えて論理的に思考し、相手に伝えることのできる日本語の能力、国際的視野で考え行動するための外国語力が重要です。
2. 他者との連携・協働を必要とする課題に対し、誠実に取り組む姿勢
保健・医療・福祉の実践はチームで行われます。他者と連携・協働して何かに取り組んだ経験は専門的実践を学ぶ上で力となります。
3. 自らの疑問を解決し、知識を深めるための学習習慣
専門職には生涯にわたる自己研鑽が求められます。疑問を解決するために、また、知識を広げ深めるために、自ら進んで調べ学ぶ習慣を身につけておく必要があります。
4. 健康な生活を送るための基本的な生活習慣
人々の健康と生活を守るためには、自分の健康に心がけ、しっかりとした基本的な生活習慣を身につけていることが不可欠です。

○入学者選抜のあり方

【一般選抜】

1. 共通テストでは5教科（国語・数学・理科・社会・外国語）7～8科目を課し、基礎学力を確認します。
2. 個人および集団面接試験によって、将来の看護師・理学療法士・作業療法士としての意欲や適性、本学部の教育を受ける上で必要となるコミュニケーション力や協調性等の能力・資質を評価します。調査書は面接試験の参考とします。

【学校推薦型選抜】

1. 小論文試験では、読解力や観察力、論理的思考力、表現力を評価します。
2. 個人面接試験によって、将来の看護師・理学療法士・作業療法士としての意欲と適性、地域医療への貢献意志、本学部の教育を受ける上で必要となるコミュニケーション力等の能力・資質を評価します。調査書、志願理由書は面接試験の参考とします。
3. 共通テストでは3科目（外国語、ほか2科目）を課し、基礎学力を確認します。

I 募集人員・日程等

1 募集人員

学部・学科		合計	一般選抜(前期日程)(注1、3)		学校推薦型選抜	
			一般枠	先進研修連携枠(ATOP-M)	先進研修連携枠(ATOP-M)	特別枠(注2)
医学部	医学科	110	20	55	20	15

※ATOP-M(エイトップ・エム) : Advanced education and training opportunities program for medical students
 (注1) 一般選抜募集人員について:「先進研修連携枠(ATOP-M)」合格者が先に募集人員(55名)に達した場合、募集・選考状況により、他の合格者は「一般枠」と「先進研修連携枠(ATOP-M)」を合わせて20名となり、「一般枠」合格者が募集人員に満たない場合があります。

(注2) 学校推薦型選抜「特別枠」の募集人員については、北海道とともに文部科学省及び厚生労働省へ認可申請する予定である令和6年度医学部医学科入学定員の臨時増員(8名)が含まれており、現時点で確定している定員ではございません。なお、臨時増員が認められた場合は、令和6年度までの時限措置となります。

(注3) 一般選抜の募集人員は、「学校推薦型選抜」の合格者数によって、増える場合があります。

学部・学科		合計	一般選抜(前期日程)	学校推薦型選抜
保健医療学部	看護学科	50	40	10
	理学療法学科	20	16	4
	作業療法学科	20	16	4
	計	90	72	18

2 日程

(1)出願受付日程

試験区分	医学部	保健医療学部
一般選抜(前期日程)	令和6年1月22日(月)～1月31日(水)※17:00必着	
学校推薦型選抜	令和5年11月20日(月)～11月24日(金)※17:00必着	令和5年11月1日(水)～11月6日(月)※17:00必着

※ 各出願最終日の受付は、17:00 必着とします。

(2)本学試験日程

試験区分	医学部	保健医療学部
一般選抜(前期日程)	令和6年2月25日(日) 令和6年2月26日(月)	令和6年2月25日(日)
学校推薦型選抜	令和6年2月1日(木)	令和5年11月25日(土)

(3)合格発表日

試験区分	医学部	保健医療学部
一般選抜(前期日程)	令和6年3月8日(金)	
学校推薦型選抜	令和6年2月7日(水)	

※医学部学校推薦型選抜第1段階選抜合格発表:令和6年1月5日(金)

保健医療学部学校推薦型選抜第1次選考合格発表:令和5年12月6日(水)

3 学生募集要項の配布日

試験区分	医学部	保健医療学部
一般選抜(前期日程)	令和5年10月下旬(予定)	
学校推薦型選抜	令和5年10月下旬(予定)	令和5年9月下旬(予定)

1 一般選抜

医学部では、顕在化している医師不足に対して、北海道が設立した医科大学として道内で医学・医療に従事する医師を養成するために、「先進研修連携枠(ATOP-M)」を設置しています。これにより一般選抜は2種類の出願枠となります。

(1) 出願資格

ア 一般枠

次の各号のいずれかに該当し、かつ、令和6年度大学入学選抜に係る大学入学共通テスト(以下「大学入学共通テスト」という。)において、**本学が指定した教科・科目をすべて受験した者**

- (ア) 高等学校又は中等教育学校を卒業した者及び令和6年3月卒業見込みの者
- (イ) 通常の課程による12年の学校教育を修了した者及び令和6年3月修了見込みの者
- (ウ) 学校教育法施行規則第150条の規定により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められる者及び令和6年3月31日までにこれに該当する見込みの者

ただし、同条第7号の規定により出願を希望する者は、事前に資格審査を受けなければならない、一般選抜の出願受付開始日の5日前までに資格審査を申請する必要があります。

なお、申請をする場合は、出願の2か月前までに、本学事務局学務課入試係にお問い合わせください。

イ 先進研修連携枠(ATOP-M)

上記「ア 一般枠」に加え、次に該当する者

- (ア) 医師法第16条の2第1項に規定する臨床研修(以下「初期臨床研修」という。)を修了後、**所定のプログラム※(卒後の必修プログラム)に従事することを確約できる者**

※「所定のプログラム」

卒業後、札幌医科大学附属病院を含む臨床研修指定医療機関で初期臨床研修修了後、札幌医科大学医学部又は附属病院の各診療科に所属し、7年間、札幌医科大学及び本学の卒後の必修プログラムに関連する**国内外**の医療機関又は研究機関において医学・医療に従事するものです。

北海道の医学・医療において指導的・中核的役割を担える医師の育成を目指します。

いずれの出願枠も、出願者の出身地及び出身高等学校等所在地による制限はありません。

(2) 出願枠

ア 一般枠(募集人員 20名)

- (ア) 修学資金貸与制度はありません。

イ 先進研修連携枠(ATOP-M)(募集人員 55名)

- (ア) 修学資金貸与制度はありません。
- (イ) 出願時に、一般選抜の出願書類に加え、初期臨床研修修了後、**所定のプログラム(卒後の必修プログラム)に従事する旨の入学志願者及びその保護者による確約書**を提出する必要があります。

なお、この確約書の提出がない場合は、「先進研修連携枠(ATOP-M)」での出願を受け付けません。

先進研修連携枠の趣旨と要件、入学後から卒後のキャリア形成については、本学ホームページ(医学部入試枠・卒後必修プログラム)並びに大学案内冊子「LEAP」を参照してください。



(3) 出願方法

出願時に「一般枠」及び「先進研修連携枠(ATOP-M)」のいずれかを選択して出願します。

(4) 入学者の選抜方法

次のとおり2段階に分けて行います。

ア 第1段階選抜

入学志願者が募集人員に対して本学が定める倍率を超えた場合、大学入学共通テストの成績により、原則として募集人員に以下の倍率を乗じた数の入学志願者を第1段階選抜の合格者とします。

(第1段階選抜を実施する場合の倍率)

学科	募集人員	倍率
医 学 科	75名	5倍

(注) 第1段階選抜は、「一般枠」と「先進研修連携枠(ATOP-M)」を一括して行います。

イ 第2段階選抜

次の項目の成績及び結果を総合して合格者を決定します。

なお、調査書は面接の際の資料とします。

日程	一般枠・先進研修連携枠(ATOP-M)
前 期 日 程	<ul style="list-style-type: none"> 大学入学共通テスト 第2次試験(個別学力検査・個人面接)

(注1) 合格者は、総合点の高い順に決定します。

(注2) 一般選抜の募集人員は、「一般枠」と「先進研修連携枠(ATOP-M)」を合わせて75名です。

「先進研修連携枠(ATOP-M)」合格者が先に募集人員(55名)に達した場合、募集・選考状況により、他の合格者は「一般枠」と「先進研修連携枠(ATOP-M)」を合わせて20名となり、「一般枠」合格者が募集人員に満たない場合があります。

(注3) 一般選抜の募集人員は、「学校推薦型選抜」の合格者数によって、増える場合があります。

(5) 大学入学共通テストの受験を要する教科・科目等

ア 一般枠・先進研修連携枠(ATOP-M)(5教科7科目)

教科	科目	科目等の選抜方法
国語	『国語』	必須
地理歴史	「世界史B」「日本史B」「地理B」	左記の7科目から1科目選択(注1)
公民	「現代社会」「倫理」「政治・経済」 『倫理、政治・経済』	
数学	『数学Ⅰ・数学A』	必須
	『数学Ⅱ・数学B』 『簿記・会計』『情報関係基礎』	左記の3科目から1科目選択(注2)
理科	「物理」「化学」「生物」	左記の3科目から2科目選択
外国語	『英語』『ドイツ語』『フランス語』 『中国語』『韓国語』	左記の5科目から1科目選択 (英語は、リスニングの成績も判定の対象とします。)

(注1) 地理歴史・公民を指定した科目数以上受験した場合は、第1解答科目を合否判定の資料として用います。第1解答科目で本学が指定した科目を受験しなかった場合には、たとえ第2解答科目で本学が指定した科目を受験した場合でも、地理歴史・公民を受験しなかったものとみなします。

(注2) 『簿記・会計』『情報関係基礎』を選択することができる者は、高等学校又は中等教育学校でこれらの科目を履修した者及び文部科学大臣の指定を受けた専修学校高等課程の学科の修了(見込み)者に限ります。

(6) 第2次試験の実施教科・科目等

ア 一般枠・先進研修連携枠(ATOP-M)

日程	教科	科目	科目等の選択方法
前期日程 (注5)	数 学	「数学Ⅰ」「数学Ⅱ」「数学Ⅲ」 「数学A」「数学B」(注1)	必須
	理 科	「物理」「物理基礎」(注2)	左記3種類の組み合わせから 2種類選択(必須)
		「化学」「化学基礎」(注3)	
		「生物」「生物基礎」(注4)	
	外 国 語	『英語』 「コミュニケーション英語Ⅰ」 「コミュニケーション英語Ⅱ」 「コミュニケーション英語Ⅲ」 「英語表現Ⅰ」「英語表現Ⅱ」	必須
面 接 (個人)		必須	

(注1) 「数学Ⅰ」「数学Ⅱ」「数学Ⅲ」「数学A」は全範囲を出題範囲とします。

「数学B」は「数列」、「ベクトル」から出題します。

(注2) 「物理」は「半導体中の電子のエネルギー帯」、「トランジスター」、「ダイオード」以外から出題します。

「物理基礎」は全範囲を出題範囲とします。

(注3) 「化学」「化学基礎」は全範囲を出題範囲とします。

(注4) 「生物」「生物基礎」は全範囲を出題範囲とします。

(注5) 数学・理科・外国語・面接のうち、いずれか1教科でも受験しなかった者は、合格者にはなりません。

なお、理科は2科目の受験が必要です。

(7) 教科の配点

ア 第1段階選抜に用いる大学入学共通テストの教科の配点

(ア) 一般枠・先進研修連携枠(ATOP-M)

学科	国語	地理歴史・公民	数学	理科	外国語	計
医 学 科	200	100	200	200	200※	900

※ 英語の場合 リーディング100点+リスニング100点=200点

ただし、リスニングを免除された者については、リーディングの得点を2倍します。

イ 第2段階選抜の配点

(ア) 一般枠・先進研修連携枠(ATOP-M)

日程	試験区分	国語	地理歴史・公民	数学	理科	外国語	面接	計	総合点
前期日程	大学入学共通テスト	150	50	150	200	150	—	700	1,400
	第2次試験	—	—	200	200	200	100	700	

(注) 面接により医療人となるための適性を欠くと判断された場合は、総合点の成績に関わらず、不合格になる場合があります。

(8) 身体等に障害のある入学志願者との事前相談

本学への入学志願者で、次表に該当する場合(学校教育法施行令第22条の3に準拠)は、受験上及び修学上の配慮が必要となることがありますので、令和5年11月17日(金)までに必ず本学事務局学務課入試係に電話等で問い合わせしてください。

必要に応じ、本学において、原則入学志願者及び保護者、又はその立場を代弁しうる者等との面談を行います。

- | |
|---|
| ア 両眼の矯正視力が0.3未満の者又は視力以外の視機能障害が高度の者のうち、拡大鏡等の使用によっても通常の文字、図形等の視覚による認識が不可能又は著しく困難な程度の者 |
| イ 両耳の聴カレベルが60デシベル以上の者のうち、補聴器等の使用によっても通常の話声を解することが不可能又は著しく困難な程度の者 |
| ウ 肢体(上肢・体幹・下肢)不自由の状態により、立位もしくは座位の保持又は歩行することが不可能又は困難な者 |
| エ 肢体(上肢・体幹・下肢)不自由の状態により、筆記又は実験・実習をすることが不可能又は困難な者 |
| オ 慢性の呼吸器、心臓、腎臓疾患等の状態が継続して医療・生活規制を必要とする程度の者又はこれに準ずる者 |
| カ 身体虚弱の状態が継続して生活規制を必要とする程度の者 |
| キ 上記以外で、受験上、修学上特別の配慮を必要とする程度の機能障害を有する者 |

問い合わせ先

札幌医科大学事務局学務課入試係 電話011-611-2111(内線21830・21840)

(9) 入試過去問題の活用

ア 本学は、アドミッション・ポリシーを実現するため、必要な範囲において、「入試過去問題活用宣言」に参加している大学の入試過去問題を使用して出題することがあります。ただし、必ず使用するとは限りません。

イ 入試過去問題を使用する際は、そのまま使用することも、一部改変することもあります。

ウ 「入試過去問題活用宣言」の詳細及び参加大学の一覧については、次のURLにて公表しています。

<http://www.nyushikakomon.jp>

2 学校推薦型選抜

(1) 出願資格

ア 先進研修連携枠(ATOP-M)

北海道内に所在する高等学校又は中等教育学校を令和6年3月卒業見込みの者のうち、最終学年を含む3年以上継続して道内に在住する者で、次のすべての要件に該当し、卒業見込みの高等学校又は中等教育学校の学校長が推薦する者

なお、学校長が推薦できる人数は1つの高等学校又は中等教育学校につき3名以内とし、特別枠と重複して推薦を受けることはできません。

- (ア) 高等学校又は中等教育学校における調査書の成績が、全体の学習成績概評で㊤又はA段階に属する者で、人物、学力ともに優秀であり、将来、医学の分野において社会に貢献する意欲のある者
- (イ) 令和6年度大学入学共通テストにおいて、**本学が指定した5教科7科目を受験する者**
- (ウ) 医師法第16条の2第1項に規定する臨床研修(以下「初期臨床研修」という。)を修了後、**所定のプログラム※(卒後の必修プログラム)に従事することを確約できる者**
- (エ) **合格した際に入学を確約できる者**

※ 「所定のプログラム」

卒業後、札幌医科大学附属病院を含む臨床研修指定医療機関で初期臨床研修修了後、札幌医科大学医学部又は附属病院の各診療科に所属し、7年間、札幌医科大学及び本学の卒後の必修プログラムに関連する**国内外**の医療機関又は研究機関において医学・医療に従事するものです。

北海道の医学・医療において指導的・中核的役割を担える医師の育成を目指します。

イ 特別枠

北海道内に所在する高等学校又は中等教育学校を令和5年3月以降卒業又は令和6年3月卒業見込みの者のうち、最終学年を含む3年以上継続して道内に在住する者(ただし、既卒者にあっては出願時の住所が道内・道外を問わない)で、次のすべての要件に該当し、卒業又は卒業見込みの高等学校又は中等教育学校の学校長が推薦する者

なお、学校長が推薦できる人数は1つの高等学校又は中等教育学校につき3名以内とし、先進研修連携枠(ATOP-M)と重複して推薦を受けることはできません。

- (ア) 高等学校又は中等教育学校における調査書の成績が、全体の学習成績概評で㊤又はA段階に属する者で、人物、学力ともに優秀であり、将来、医学の分野において社会に貢献する意欲のある者
- (イ) 大学入学共通テストにおいて、**本学が指定した5教科7科目を受験する者**
- (ウ) **本学を卒業後、道内の医療機関に9年以上勤務し、かつ、当該勤務期間のうち北海道医師養成確保修学資金貸付条例の規定に基づく5年以上の期間を知事が指定する公的医療機関等で勤務することを確約するとともに、修学資金制度の内容を承知している者**
- (エ) **合格した際に入学を確約できる者**

(2) 出願枠

先進研修連携枠(ATOP-M)と特別枠の併願はできません。どちらか一方への専願となります。

先進研修連携枠と特別枠の趣旨と要件、入学後から卒後のキャリア形成については、本学ホームページ(医学部入試枠・卒後必修プログラム)並びに大学案内冊子「LEAP」を参照してください。



ア 先進研修連携枠(ATOP-M)(募集人員 20名)

- (ア) 出願に当たっては、初期臨床研修修了後、**所定のプログラム(卒後の必修プログラム)に従事する旨の入学志願者及びその保護者による確約書**並びに卒業見込みの高等学校又は中等教育学校の学校長から推薦書、推薦理由書等の提出が必要です。
- (イ) 修学資金貸与制度はありません。

イ 特別枠(募集人員 15名^(注1))

(ア) 出願に当たっては、入学志願者からの自己推薦書、**卒業後一定期間北海道の地域医療に従事する旨の入学志願者及びその保護者による確約書(注2)**並びに卒業又は卒業見込みの高等学校又は中等教育学校の学校長から推薦書、推薦理由書等の提出が必要です。

(イ) 特別枠の入学者全員を対象として北海道医師養成確保修学資金(大学の入学料及び授業料に相当する額並びに月額12万円)が北海道から貸与されます。

(ウ) 勤務先の医療機関の範囲等、その他修学資金に関する問い合わせ先は次のとおりです。

北海道保健福祉部地域医療推進局地域医療課

〒060-8588 札幌市中央区北3条西6丁目 電話:011-204-5214

URL: <https://www.pref.hokkaido.lg.jp/hf/cis/ishikakuho/tiikiwaku.html>

なお、入学に当たっては、北海道知事に対し、北海道医師養成確保修学資金貸付条例に規定する必要勤務期間、知事が指定する公的医療機関において医師として従事する旨の誓約書の提出が求められます。

(注1) 学校推薦型選抜「特別枠」の募集人員については、北海道とともに文部科学省及び厚生労働省へ認可申請する予定である令和6年度医学部医学科入学定員の臨時増員(8名)が含まれており、現時点で確定している定員ではございません。なお、臨時増員が認められた場合は、令和6年度までの時限措置となります。

(注2) **修学資金の貸与に当たっては、本学を卒業後、道内の医療機関に9年以上勤務し、かつ、当該勤務期間のうち北海道医師養成確保修学資金貸付条例の規定に基づく5年以上の期間を知事が指定する公的医療機関等で勤務することが義務づけられており、出願時に札幌医科大学長に対し、確約書の提出が必要です。**

(3) 出願方法等

ア 先進研修連携枠(ATOP-M)と特別枠の併願はできません。

イ 学校推薦型選抜の出願者は、本学の学校推薦型選抜に不合格であった場合に備えて、本学又は他の国公立大学の一般選抜に出願することができます。

なお、本学の一般選抜に出願する場合は、学校推薦型選抜の出願とは別に出願しなければなりません。

(4) 入学者の選抜方法

ア 先進研修連携枠(ATOP-M)

次のとおり2段階に分けて行います。

区分	選抜方法
第1段階選抜	入学志願者が募集人員の3倍を超えた場合、高等学校長又は中等教育学校長から提出された調査書及び推薦理由書の内容に基づいて、原則として募集人員の3倍の数の入学志願者を第1段階選抜の合格者とします。
第2段階選抜	次の項目の結果を総合して合格者を決定します。 なお、推薦理由書及び調査書は面接の際の資料とします。 <ul style="list-style-type: none">・ 大学入学共通テスト・ 第2次試験(総合問題・個人面接)

イ 特別枠

次のとおり2段階に分けて行います。

区分	選抜方法
第1段階選抜	入学志願者が募集人員の3倍を超えた場合、高等学校長又は中等教育学校長から提出された調査書、推薦理由書及び自己推薦書の内容に基づいて、原則として募集人員の3倍の数の入学志願者を第1段階選抜の合格者とします。
第2段階選抜	次の項目の結果を総合して合格者を決定します。 なお、推薦理由書及び調査書は面接の際の資料とします。 <ul style="list-style-type: none">・ 大学入学共通テスト・ 第2次試験(総合問題・個人及び集団面接・自己推薦書)

(5) 大学入学共通テストの受験を要する教科・科目等

ア 先進研修連携枠(ATOP-M)・特別枠(5教科7科目)

教科	科目	科目等の選択方法
国語	『国語』	必須
地理歴史	「世界史B」「日本史B」「地理B」	左記7科目から1科目選択(注)
公民	「現代社会」「倫理」「政治・経済」 『倫理、政治・経済』	
数学	『数学Ⅰ・数学A』	必須
	『数学Ⅱ・数学B』	必須
理科	「物理」「化学」「生物」	左記3科目から2科目選択
外国語	『英語』『ドイツ語』『フランス語』 『中国語』『韓国語』	左記5科目から1科目選択 (英語は、リスニングの成績も判定の対象とします。)

(注) 指定した科目数以上受験した場合は、第1解答科目を合否判定の資料として用います。ただし、第1解答科目で本学が指定した科目を受験しなかった場合には、たとえ第2解答科目で本学が指定した科目を受験した場合でも、合格者にはなりません。

(6) 第2次試験の実施教科・科目等

ア 先進研修連携枠(ATOP-M)・特別枠

教科・科目等	科目等の選択方法
総合問題	必須
面接(注)	必須

(注) 総合問題を受験しなかった者は、面接を受験できません。

(7) 教科の配点

ア 先進研修連携枠(ATOP-M)

教科	国語	地理歴史・公民	数学	理科	外国語	計
大学入学共通テスト	200	100	200	200	200※	900

※ 英語の場合、リーディング100点+リスニング100点=200点
ただし、リスニングを免除された者については、リーディングの得点を2倍します。

教科	総合問題	面接	大学入学共通テスト	計
第2次試験	400	400	400※	1,200

※ 大学入学共通テストは、総配点を400点に換算する。

(注) 大学入学共通テストの成績が、総配点900点中700点以上の者を入学候補者として選考の対象とします。

(注) 面接により医療人となるための適性を欠くと判断された場合は、第2次試験の成績に関わらず、不合格になる場合があります。

イ 特別枠

教科	国語	地理歴史・公民	数学	理科	外国語	計
大学入学共通テスト	200	100	200	200	200※	900

※ 英語の場合、リーディング100点＋リスニング100点＝200点
ただし、リスニングを免除された者については、リーディングの得点を2倍します。

教科	総合問題	面接	自己推薦書	大学入学共通テスト	計
第2次試験	400	400	100	400※	1,300

※ 大学入学共通テストは、総配点を400点に換算する。

(注)大学入学共通テストの成績が、総配点900点中700点以上の者を入学候補者として選考の対象とします。

ただし、大学入学共通テストの平均点が例年を大きく下回ることなどにより、上記による選考の結果、合格者数が令和6年度医学部医学科入学定員の臨時増員(8名)に満たない場合にあっては、第2次試験の成績が上位の者から臨時増員数の範囲内で選抜することを考慮します。

(注)面接により医療人となるための適性を欠くと判断された場合は、第2次試験の成績に関わらず、不合格になる場合があります。

(8) 身体等に障害のある入学志願者との事前相談

本学への入学志願者で、次表に該当する場合(学校教育法施行令第22条の3に準拠)は、受験上及び修学上の配慮が必要となることがありますので、令和5年10月20日(金)までに必ず本学事務局学務課入試係に電話等で問い合わせしてください。

必要に応じ、本学において、原則入学志願者及び保護者、又はその立場を代弁しうる者等との面談を行います。

- ア 両眼の矯正視力が0.3未満の者又は視力以外の視機能障害が高度の者のうち、拡大鏡等の使用によっても通常の文字、図形等の視覚による認識が不可能又は著しく困難な程度の者
- イ 両耳の聴力レベルが60デシベル以上の者のうち、補聴器等の使用によっても通常の話声を解することが不可能又は著しく困難な程度の者
- ウ 肢体(上肢・体幹・下肢)不自由の状態により、立位もしくは座位の保持又は歩行することが不可能又は困難な者
- エ 肢体(上肢・体幹・下肢)不自由の状態により、筆記又は実験・実習をすることが不可能又は困難な者
- オ 慢性の呼吸器、心臓、腎臓疾患等の状態が継続して医療・生活規制を必要とする程度の者又はこれに準ずる者
- カ 身体虚弱の状態が継続して生活規制を必要とする程度の者
- キ 上記以外で、受験上、修学上特別の配慮を必要とする程度の機能障害を有する者

問い合わせ先

札幌医科大学事務局学務課入試係 電話011-611-2111(内線21830・21840)

(9) 入試過去問題の活用

ア 本学は、アドミッション・ポリシーを実現するため、必要な範囲において、「入試過去問題活用宣言」に参加している大学の入試過去問題を使用して出題することがあります。ただし、必ず使用するとは限りません。

イ 入試過去問題を使用する際は、そのまま使用することも、一部改変することもあります。

ウ 「入試過去問題活用宣言」の詳細及び参加大学の一覧については、次の URL にて公表しています。

<http://www.nyushikakomon.jp>

1 一般選抜(募集人員 40名)

(1) 出願資格

次の各号のいずれかに該当し、かつ、令和6年度大学入学共通テストにおいて、**本学が指定した教科・科目をすべて受験した者**

ア 高等学校又は中等教育学校を卒業した者及び令和6年3月卒業見込みの者

イ 通常の課程による12年の学校教育を修了した者及び令和6年3月修了見込みの者

ウ 学校教育法施行規則第150条の規定により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められる者及び令和6年3月31日までにこれに該当する見込みの者

ただし、同条第7号の規定により出願を希望する者は、事前に資格審査を受けなければならない、一般選抜の出願受付開始日の5日前までに資格審査を申請する必要があります。

なお、申請をする場合は、出願の2か月前までに、本学事務局学務課入試係にお問い合わせください。

(2) 入学者の選抜方法

次のとおり2段階に分けて行います。

ア 第1段階選抜

入学志願者が募集人員に対して本学が定める倍率を超えた場合、大学入学共通テストの成績により、原則として募集人員に以下の倍率を乗じた数の入学志願者を第1段階選抜の合格者とします。

(第1段階選抜を実施する場合の倍率)

学科	募集人員	倍率
看護学科	40名	3倍

イ 第2段階選抜

次の項目の成績及び結果を総合して合格者を決定します。

なお、調査書は面接の際の資料とします。

日程	看護学科
前期日程	<ul style="list-style-type: none"> ・ 大学入学共通テスト ・ 第2次試験(個人及び集団面接)

(3) 大学入学共通テストの受験を要する教科・科目等

ア 看護学科 5～6教科7～8科目

教科	科目	科目等の選択方法			
国語	『国語』	必須			
数学	「数学Ⅰ」『数学Ⅰ・数学A』	左記2科目から1科目選択			
	「数学Ⅱ」『数学Ⅱ・数学B』 『簿記・会計』『情報関係基礎』	左記4科目から1科目選択(注1)			
外国語	『英語』『ドイツ語』『フランス語』 『中国語』『韓国語』	左記5科目から1科目選択 (英語は、リスニングの成績も判定の対象とします。)			
地理歴史	「世界史B」「日本史B」「地理B」	左記7科目から1科目選択		左記7科目から2科目選択 (同一科目名を含む選択不可)	
公民	「現代社会」「倫理」「政治・経済」 『倫理、政治・経済』				
理科	「物理」「化学」「生物」	左記3科目から2科目選択	左記3科目から1科目選択 (同一科目名を含む選択不可)	左記3科目から1科目選択	<div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="border-left: 1px solid black; border-right: 1px solid black; width: 10px; height: 100%;"></div> <div style="margin-left: 5px;">(注2) (注3)</div> </div>
	「物理基礎」「化学基礎」「生物基礎」		左記3科目から2科目選択 (同一科目名を含む選択不可)		

(注1) 『簿記・会計』『情報関係基礎』を選択することができる者は、高等学校又は中等教育学校でこれらの科目を履修した者及び文部科学大臣の指定を受けた専修学校高等課程の学科の修了(見込み)者に限ります。

(注2) 地理歴史・公民及び理科については選択方法が4つあります。同一科目名を含む選択はできません。

(注3) 指定した科目数以上受験した場合は、地理歴史・公民の第1解答科目、残りの科目(理科の「基礎を付した2科目」を含む)のうち得点の高い科目2科目を合否判定の資料として用います。

ただし、理科の「基礎を付さない科目」において、第1解答科目で本学が指定した科目を受験しなかった場合には、たとえ第2解答科目で本学が指定した科目を受験した場合でも「基礎を付さない科目」を受験しなかったものとみなします。

また、理科の「基礎を付した科目」で本学が指定した科目を受験しなかった場合には、「基礎を付した科目」を受験しなかったものとみなします。

(4) 第2次試験の実施教科・科目等

日程	教科・科目等	科目等の選択方法
前期日程	面接(個人及び集団)	必須

(注) 面接を受験しなかった者は、合格者にはなりません。

(5) 第1段階選抜に用いる大学入学共通テストの教科の配点

学科	国語	地理歴史・公民	理科	数学	外国語	計	
看護学科	200	100	100	100	200	200※	900

※ 英語の場合 リーディング100点+リスニング100点=200点

ただし、リスニングを免除された者については、リーディングの得点を2倍します。

(6) 第2段階選抜に用いる配点

日程	試験区分	国語	地理歴史・公民	理科	数学	外国語	面接	計	総合点	
前期日程	大学入学共通テスト	200	100	100	100	200	200	—	900	1,100
	第2次試験	—	—	—	—	—	200	200		

(注) 面接により医療人となるための適性を欠くと判断された場合は、総合点の成績に関わらず、不合格になる場合があります。

(7) 身体等に障害のある入学志願者との事前相談

本学への入学志願者で、次表に該当する場合(学校教育法施行令第22条の3に準拠)は、受験上及び修学上の配慮が必要となることがありますので、令和5年11月17日(金)までに必ず本学事務局学務課入試係に電話等で問い合わせしてください。

必要に応じ、本学において、原則入学志願者及び保護者、又はその立場を代弁しうる者等との面談を行います。

- ア 両眼の矯正視力が0.3未満の者又は視力以外の視機能障害が高度の者のうち、拡大鏡等の使用によっても通常の文字、図形等の視覚による認識が不可能又は著しく困難な程度の者
- イ 両耳の聴力レベルが60デシベル以上の者のうち、補聴器等の使用によっても通常の話声を解することが不可能又は著しく困難な程度の者
- ウ 肢体(上肢・体幹・下肢)不自由の状態により、立位もしくは座位の保持又は歩行することが不可能又は困難な者
- エ 肢体(上肢・体幹・下肢)不自由の状態により、筆記又は実験・実習をすることが不可能又は困難な者
- オ 慢性の呼吸器、心臓、腎臓疾患等の状態が継続して医療・生活規制を必要とする程度の者又はこれに準ずる者
- カ 身体虚弱の状態が継続して生活規制を必要とする程度の者
- キ 上記以外で、受験上、修学上特別の配慮を必要とする程度の機能障害を有する者

問い合わせ先

札幌医科大学事務局学務課入試係 電話011-611-2111(内線21830・21840)

2 学校推薦型選抜(募集人員 10名)

(1) 出願資格

北海道内に所在する高等学校又は中等教育学校を令和6年3月卒業見込みの者のうち、最終学年を含む3年以上継続して道内に在住する者で、次のすべての要件に該当し、卒業見込みの高等学校又は中等教育学校の学校長が推薦する者

なお、学校長が推薦できる人数は、1つの高等学校又は中等教育学校につき1名とします。

ア 高等学校又は中等教育学校における調査書の成績が、全体の評定平均値で4.0以上の者で、人物、学力ともに優秀であり、将来、保健医療の分野において社会に貢献する意欲のある者

イ 令和6年度大学入学共通テストにおいて、**本学が指定した教科・科目を受験する者**

ウ **合格した際に入学を確約できる者**

(2) 出願方法等

ア 出願に当たっては、卒業見込みの高等学校又は中等教育学校の学校長から推薦書、推薦理由書等の提出が必要です。

イ 学校推薦型選抜の出願者は、本学の学校推薦型選抜に不合格であった場合に備えて、本学又は他の国公立大学の一般選抜に出願することができます。

なお、本学の一般選抜に出願する場合は、学校推薦型選抜の出願とは別に出願しなければなりません。

ウ 入学後4年間の教育カリキュラムは一般選抜による入学者と同様です。

エ 保健医療学部には、修学資金貸与制度はありません。

(3) 入学者の選抜方法

次のとおり行います。

区分	選抜方法
第1次選考	小論文及び面接により募集人員数を合格とします。 なお、高等学校長又は中等教育学校長から提出された調査書、推薦理由書及び志願理由書は、面接の際の資料とします。
第2次選考	第1次選考合格者のうち、大学入学共通テストの合計点が全国平均点以上である者を合格者とします。

(4) 大学入学共通テストの受験を要する教科・科目等

ア 看護学科 3教科3~4科目

教科	科目	科目等の選択方法
国語	『国語』	必須
地理歴史	「世界史 B」「日本史 B」「地理 B」	左記の15科目から1科目選択
公民	「現代社会」「倫理」「政治・経済」 『倫理、政治・経済』	
数学	「数学 I」『数学 I・数学 A』	ただし、「物理基礎」「化学基礎」「生物基礎」については2科目を選択する。(注)
理科	「物理」「化学」「生物」 「物理基礎」「化学基礎」「生物基礎」	
外国語	『英語』(リスニングの成績も判定の対象とします。)	必須

(注) 指定した科目数以上受験した場合は、地理歴史・公民及び理科の第1解答科目、理科の「基礎を付した2科目」並びに数学の解答科目のうち、得点から全国平均点を差引いた値が最も大きい科目を用いて合否判定を行います。

(5) 本学試験(第1次選考)の実施教科・科目等

ア 第1次選考

教科・科目等	科目等の選択方法
小 論 文	必須
面 接 (個 人)	必須

(注) 小論文を受験しなかった者は、面接を受験できません。

(6) 教科の配点

教科	小論文	面接	計
第 1 次 選 考	100	100	200
第 2 次 選 考	大学入学共通テストの成績については、第2次選考の判定にのみ用いる。		

(注1) 面接により医療人となるための適性を欠くと判断された場合は、第1次選考の成績に関わらず、不合格になる場合があります。

(注2) 第1次選考合格者のうち、大学入学共通テストにおいて、本学が指定した教科・科目の合計点が全国平均点以上である者を第2次選考の合格者とします。

(7) 身体等に障害のある入学志願者との事前相談

本学への入学志願者で、次表に該当する場合(学校教育法施行令第22条の3に準拠)は、受験上及び修学上の配慮が必要となることがありますので、令和5年9月29日(金)までに必ず本学事務局学務課入試係に電話等で問い合わせしてください。

必要に応じ、本学において、原則入学志願者及び保護者、又はその立場を代弁しうる者等との面談を行います。

- | |
|---|
| ア 両眼の矯正視力が0.3未満の者又は視力以外の視機能障害が高度の者のうち、拡大鏡等の使用によっても通常の文字、図形等の視覚による認識が不可能又は著しく困難な程度の者 |
| イ 両耳の聴力レベルが60デシベル以上の者のうち、補聴器等の使用によっても通常の話声を解することが不可能又は著しく困難な程度の者 |
| ウ 肢体(上肢・体幹・下肢)不自由の状態により、立位もしくは座位の保持又は歩行することが不可能又は困難な者 |
| エ 肢体(上肢・体幹・下肢)不自由の状態により、筆記又は実験・実習をすることが不可能又は困難な者 |
| オ 慢性の呼吸器、心臓、腎臓疾患等の状態が継続して医療・生活規制を必要とする程度の者又はこれに準ずる者 |
| カ 身体虚弱の状態が継続して生活規制を必要とする程度の者 |
| キ 上記以外で、受験上、修学上特別の配慮を必要とする程度の機能障害を有する者 |

問い合わせ先

札幌医科大学事務局学務課入試係 電話011-611-2111(内線21830・21840)

(8) 入試過去問題の活用

ア 本学は、アドミッション・ポリシーを実現するため、必要な範囲において、「入試過去問題活用宣言」に参加している大学の入試過去問題を使用して出題することがあります。ただし、必ず使用するとは限りません。

イ 入試過去問題を使用する際は、そのまま使用することも、一部改変することもあります。

ウ 「入試過去問題活用宣言」の詳細及び参加大学の一覧については、次の URL にて公表しています。

<http://www.nyushikakomon.jp>

1 一般選抜(募集人員 学科毎に16名)

(1) 出願資格

次の各号のいずれかに該当し、かつ、令和6年度大学入学共通テストにおいて、**本学が指定した教科・科目をすべて受験した者**

ア 高等学校又は中等教育学校を卒業した者及び令和6年3月卒業見込みの者

イ 通常の課程による12年の学校教育を修了した者及び令和6年3月修了見込みの者

ウ 学校教育法施行規則第150条の規定により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められる者及び令和6年3月31日までにこれに該当する見込みの者

ただし、同条第7号の規定により出願を希望する者は、事前に資格審査を受けなければならないが、一般選抜の出願受付開始日の5日前までに資格審査を申請する必要があります。

なお、申請をする場合は、出願の2か月前までに、本学事務局学務課入試係にお問い合わせください。

(2) 入学者の選抜方法

次のとおり2段階に分けて行います。

ア 第1段階選抜

入学志願者が募集人員に対して本学が定める倍率を超えた場合、大学入学共通テストの成績により、原則として各学科の募集人員に以下の倍率を乗じた数の入学志願者を第1段階選抜の合格者とします。

(第1段階選抜を実施する場合の倍率)

学科	募集人員	倍率
理学療法学科	16名	3倍
作業療法学科	16名	3倍

イ 第2段階選抜

次の項目の成績及び結果を総合して合格者を決定します。

なお、調査書は面接の際の資料とします。

日程	理学療法学科・作業療法学科
前期日程	<ul style="list-style-type: none"> 大学入学共通テスト 第2次試験(個人及び集団面接)

(3) 大学入学共通テストの受験を要する教科・科目等

ア 理学療法学科 5教科7～8科目

教科	科目	科目等の選択方法	
国語	『国語』	必須	
数学	「数学Ⅰ」『数学Ⅰ・数学A』	左記の2科目から1科目選択	
	「数学Ⅱ」『数学Ⅱ・数学B』 『簿記・会計』『情報関係基礎』	左記の4科目から1科目選択(注1)	
外国語	『英語』『ドイツ語』『フランス語』 『中国語』『韓国語』	左記の5科目から1科目選択 (英語は、リスニングの成績も判定の対象とします。)	
地理歴史	「世界史B」「日本史B」「地理B」	左記の7科目から1科目選択(注2)	
公民	「現代社会」「倫理」「政治・経済」 『倫理、政治・経済』		
理科	「物理」「化学」「生物」	左記の3科目から2科目 選択	左記の3科目から1科目 選択 (同一科目名を含む選択 不可)
	「物理基礎」「化学基礎」「生物基礎」		左記の3科目から2科目 選択 (同一科目名を含む選択 不可)

(注3)

(注1) 『簿記・会計』『情報関係基礎』を選択することができる者は、高等学校又は中等教育学校でこれらの科目を履修した者及び文部科学大臣の指定を受けた専修学校高等課程の学科の修了(見込み)者に限ります。

(注2) 地理歴史・公民は、第1解答科目を合否判定の資料として用います。

(注3) 理科については選択方法が2つあります。同一科目名を含む選択はできません。

理科の「基礎を付さない科目」において、第1解答科目で本学が指定した科目を受験しなかった場合には、たとえ第2解答科目で本学が指定した科目を受験した場合でも「基礎を付さない科目」を受験しなかったものとみなします。

また、理科の「基礎を付した科目」で本学が指定した科目を受験しなかった場合には「基礎を付した科目」を受験しなかったものとみなします。

イ 作業療法学科 5～6教科7～8科目

教科	科目	科目等の選択方法		
国 語	『国語』	必須		
数 学	「数学Ⅰ」『数学Ⅰ・数学A』	左記の2科目から1科目選択		
	「数学Ⅱ」『数学Ⅱ・数学B』 『簿記・会計』『情報関係基礎』	左記の4科目から1科目選択(注1)		
外 国 語	『英語』『ドイツ語』『フランス語』 『中国語』『韓国語』	左記の5科目から1科目選択 (英語は、リスニングの成績も判定の対象とします。)		
地理歴史	「世界史B」「日本史B」「地理B」	左記の7科目から1科目選択		左記の7科目から2科目選択 (同一科目名を含む選択不可)
公 民	「現代社会」「倫理」「政治・経済」 『倫理、政治・経済』			
理 科	「物理」「化学」「生物」	左記の3科目から2科目選択	左記の3科目から1科目選択 (同一科目名を含む選択不可)	左記の3科目から1科目選択
	「物理基礎」「化学基礎」「生物基礎」		左記の3科目から2科目選択 (同一科目名を含む選択不可)	

(注2)
(注3)

(注1) 『簿記・会計』『情報関係基礎』を選択することができる者は、高等学校又は中等教育学校でこれらの科目を履修した者及び文部科学大臣の指定を受けた専修学校高等課程の学科の修了(見込み)者に限ります。

(注2) 地理歴史・公民及び理科については選択方法が3つあります。同一科目名を含む選択はできません。

(注3) 指定した科目数以上受験した場合は、地理歴史・公民の第1解答科目、残りの科目(理科の「基礎を付した2科目」を含む)のうち、上記に示した3つの選択方法のいずれかを満たす組み合わせから得点の高い科目2科目を合否判定の資料として用います。

ただし、理科の「基礎を付さない科目」において、第1解答科目で本学が指定した科目を受験しなかった場合には、たとえ第2解答科目で本学が指定した科目を受験した場合でも「基礎を付さない科目」を受験しなかったものとみなします。

また、理科の「基礎を付した科目」で本学が指定した科目を受験しなかった場合には、「基礎を付した科目」を受験しなかったものとみなします。

(4) 第2次試験の実施教科・科目等

日程	教科・科目等	科目等の選択方法
前 期 日 程	面接(個人及び集団)	必須

(注) 面接を受験しなかった者は、合格者にはなりません。

(5) 教科の配点

ア 第1段階選抜に用いる大学入学共通テストの教科の配点

学科	国語	地理歴史・公民	理科	数学	外国語	計	
理学療法学科	200	100	200	200	200※	900	
作業療法学科	200	100	100	100	200	200※	900

※ 英語の場合 リーディング100点+リスニング100点=200点
ただし、リスニングを免除された者については、リーディングの得点を2倍します。

(6) 第2段階選抜に用いる配点

ア 理学療法学科

日程	試験区分	国語	地理歴史・公民	理科	数学	外国語	面接	計	総合点
前期日程	大学入学共通テスト	200	100	200	200	200	—	900	1,100
	第2次試験	—	—	—	—	—	200	200	

(注) 面接により医療人となるための適性を欠くと判断された場合は、総合点の成績に関わらず、不合格になる場合があります。

イ 作業療法学科

日程	試験区分	国語	地理歴史・公民	理科	数学	外国語	面接	計	総合点	
前期日程	大学入学共通テスト	200	100	100	100	200	200	—	900	1,100
	第2次試験	—	—	—	—	—	200	200		

(注) 面接により医療人となるための適性を欠くと判断された場合は、総合点の成績に関わらず、不合格になる場合があります。

(7) 身体等に障害のある入学志願者との事前相談

本学への入学志願者で、次表に該当する場合(学校教育法施行令第22条の3に準拠)は、受験上及び修学上の配慮が必要となることがありますので、令和5年11月17日(金)までに必ず本学事務局学務課入試係に電話等で問い合わせしてください。

必要に応じ、本学において、原則入学志願者及び保護者、又はその立場を代弁しうる者等との面談を行います。

- ア 両眼の矯正視力が0.3未満の者又は視力以外の視機能障害が高度の者のうち、拡大鏡等の使用によっても通常の文字、図形等の視覚による認識が不可能又は著しく困難な程度の者
- イ 両耳の聴力レベルが60デシベル以上の者のうち、補聴器等の使用によっても通常の話し声を解することが不可能又は著しく困難な程度の者
- ウ 肢体(上肢・体幹・下肢)不自由の状態により、立位もしくは座位の保持又は歩行することが不可能又は困難な者
- エ 肢体(上肢・体幹・下肢)不自由の状態により、筆記又は実験・実習をすることが不可能又は困難な者
- オ 慢性の呼吸器、心臓、腎臓疾患等の状態が継続して医療・生活規制を必要とする程度の者又はこれに準ずる者
- カ 身体虚弱の状態が継続して生活規制を必要とする程度の者
- キ 上記以外で、受験上、修学上特別の配慮を必要とする程度の機能障害を有する者

問い合わせ先

札幌医科大学事務局学務課入試係 電話011-611-2111(内線21830・21840)

2 学校推薦型選抜(募集人員 学科毎に4名)

(1) 出願資格

北海道内に所在する高等学校又は中等教育学校を令和6年3月卒業見込みの者のうち、最終学年を含む3年以上継続して道内に在住する者で、次のすべての要件に該当し、卒業見込みの高等学校又は中等教育学校の学校長が推薦する者

なお、学校長が推薦できる人数は、1つの高等学校又は中等教育学校につき1学科1名とします。

ア 高等学校又は中等教育学校における調査書の成績が、全体の評定平均値で4.0以上の者で、人物、学力ともに優秀であり、将来、保健医療の分野において社会に貢献する意欲のある者

イ 令和6年度大学入学共通テストにおいて、**本学が指定した教科・科目を受験する者**

ウ **合格した際に入学を確約できる者**

(2) 出願方法等

ア 出願に当たっては、卒業見込みの高等学校又は中等教育学校の学校長から推薦書、推薦理由書等の提出が必要です。

イ 学校推薦型選抜の出願者は、本学の学校推薦型選抜に不合格であった場合に備えて、本学又は他の国公立大学の一般選抜に出願することができます。

なお、本学の一般選抜に出願する場合は、学校推薦型選抜の出願とは別に出願しなければなりません。

ウ 入学後4年間の教育カリキュラムは一般選抜による入学者と同様です。

エ 保健医療学部には、修学資金貸与制度はありません。

(3) 入学者の選抜方法

次のとおり行います。

区分	選抜方法
第1次選考	小論文及び面接により募集人員数を合格とします。 なお、高等学校長又は中等教育学校長から提出された調査書、推薦理由書及び志願理由書は、面接の際の資料とします。
第2次選考	第1次選考合格者のうち、大学入学共通テストの合計点が全国平均点以上である者を合格者とします。

(4) 大学入学共通テストの受験を要する教科・科目等

ア 理学療法学科 2～3教科3科目、作業療法学科 3教科3科目

教科	科目	科目等の選択方法	
		理学療法学科	作業療法学科
国語	『国語』	左記の6科目から2科目選択	必須
数学	「数学I」「数学I・数学A」		左記2科目から1科目選択
理科	「物理」「化学」「生物」 「物理基礎」「化学基礎」「生物基礎」		
外国語	『英語』(リスニングの成績も判定の対象とします。)	必須	必須
地理歴史	「世界史B」「日本史B」「地理B」		
公民	「現代社会」「倫理」「政治・経済」 『倫理、政治・経済』		

(5) 本学試験(第1次選考)の実施教科・科目等

ア 第1次選考

教科・科目等	科目等の選択方法
小 論 文	必須
面 接 (個 人)	必須

(注) 小論文を受験しなかった者は、面接を受験できません。

(6) 教科の配点

教科	小論文	面接	計
第 1 次 選 考	100	100	200
第 2 次 選 考	大学入学共通テストの成績については、第2次選考の判定にのみ用いる。		

(注1) 面接により医療人となるための適性を欠くと判断された場合は、第1次選考の成績に関わらず、不合格になる場合があります。

(注2) 第1次選考合格者のうち、大学入学共通テストにおいて、本学が指定した教科・科目の合計点が全国平均点以上である者を第2次選考の合格者とします。

(7) 身体等に障害のある入学志願者との事前相談

本学への入学志願者で、次表に該当する場合(学校教育法施行令第22条の3に準拠)は、受験上及び修学上の配慮が必要となることがありますので、令和5年9月29日(金)までに必ず本学事務局学務課入試係に電話等で問い合わせしてください。

必要に応じ、本学において、原則入学志願者及び保護者、又はその立場を代弁しうる者等との面談を行います。

- ア 両眼の矯正視力が0.3未満の者又は視力以外の視機能障害が高度の者のうち、拡大鏡等の使用によっても通常の文字、図形等の視覚による認識が不可能又は著しく困難な程度の者
- イ 両耳の聴力レベルが60デシベル以上の者のうち、補聴器等の使用によっても通常の話声を解することが不可能又は著しく困難な程度の者
- ウ 肢体(上肢・体幹・下肢)不自由の状態により、立位もしくは座位の保持又は歩行することが不可能又は困難な者
- エ 肢体(上肢・体幹・下肢)不自由の状態により、筆記又は実験・実習をすることが不可能又は困難な者
- オ 慢性の呼吸器、心臓、腎臓疾患等の状態が継続して医療・生活規制を必要とする程度の者又はこれに準ずる者
- カ 身体虚弱の状態が継続して生活規制を必要とする程度の者
- キ 上記以外で、受験上、修学上特別の配慮を必要とする程度の機能障害を有する者

問い合わせ先

札幌医科大学事務局学務課入試係 電話011-611-2111(内線21830・21840)

(8) 入試過去問題の活用

ア 本学は、アドミッション・ポリシーを実現するため、必要な範囲において、「入試過去問題活用宣言」に参加している大学の入試過去問題を使用して出題することがあります。ただし、必ず使用するとは限りません。

イ 入試過去問題を使用する際は、そのまま使用することも、一部改変することもあります。

ウ 「入試過去問題活用宣言」の詳細及び参加大学の一覧については、次の URL にて公表しています。

<http://www.nyushikakomon.jp>

V 学生募集要項の請求先及び請求方法

1 本学で配布(学校推薦型選抜学生募集要項を除く。)

「I 募集人員・日程等(p3)」記載の配布日から出願受付終了日までの間、次により配布します。

- ・ 事務局学務課入試係 8:45～17:30(土・日・祝日を除く。)
- ・ 基礎医学研究棟警備室(24時間(毎日))

2 テレメールから請求(学校推薦型選抜学生募集要項を除く。)

資料請求用 QR コード

<https://telemail.jp/> にアクセスし、ガイダンスに従ってご請求ください。



資料名	資料請求番号	料金(送料含・後納)	発送開始日
大学案内のみ	560102	250円	6月中旬(予定)
一般選抜学生募集要項のみ	580102	215円	11月上旬(予定)
大学案内＋一般選抜学生募集要項	540102	310円	11月上旬(予定)

- ・ 料金は資料の重量や発送方法により変更となる場合があります。

- 「テレメール」についてのお問い合わせ先
テレメールカスタマーセンター
IP電話 050-8601-0102 (9:30～18:00)

3 大学情報センター「モバっちょ」へ請求(学校推薦型選抜学生募集要項を除く。)

<https://djc-mb.jp/sapmed/> にアクセスし、ご請求ください。

モバっちょ



資料名	料金(送料含)	発送開始日
大学案内のみ	250円	6月中旬(予定)
一般選抜学生募集要項のみ	250円	11月上旬(予定)
大学案内＋一般選抜学生募集要項	350円	11月上旬(予定)

- ・ 料金に変更となる場合があります。

- 「モバっちょ」についてのお問い合わせ先
大学情報センター株式会社 モバっちょカスタマーセンター
TEL 050-3540-5005(平日10:00～18:00)

4 卒業又は卒業見込みの高等学校等で配布

学校推薦型選抜学生募集要項については、卒業又は卒業見込みの高等学校等を経由した配布となります。

VI 私費外国人留学生入試

1 募集人員

医学部 若干名
保健医療学部 若干名

2 出願資格

次のすべての事項に該当する者

- (1) 日本国籍を有しない者(日本国の永住許可を得ている者は含まない。)
- (2) 次の各号のいずれかに該当する者
 - ア 外国において、学校教育における12年の課程を修了した者及び令和6年3月31日までに修了見込みの者(外国の学校において、最終学年を含む2年以上継続して在学したこと)
 - イ アに準ずる者で文部科学大臣の指定した者
 - ウ スイス民法典に基づく財団法人である国際バカロレア事務局が授与する国際バカロレア資格、ドイツ連邦共和国の各州において大学入学資格として認められているアビトゥア資格、フランス共和国において大学入学資格として認められているバカロレア資格または、グレート・ブリテン及び北部アイルランド連合王国において大学入学資格として認められるジェネラル・サーティフィケート・オブ・エデュケーション・アドバンスト・レベル資格のいずれかを取得した者
- (3) 留学生の学費と一身上の責任を負うことの出来る、日本国内に居住している身元保証人を有する者
- (4) 独立行政法人日本学生支援機構が実施している日本留学試験(令和4年6月～令和5年11月実施分)を受験し、次の別表の要件に該当する者
なお、出題言語(日本語又は英語)は、自由選択とします。

(別表)

学部・学科		日本留学試験の受験科目		
医学部	医 学 科	日本語 読解、聴解・聴読解 記述	200点以上 25点以上	数学(コース2) 120点以上 理科(2科目自由選択) 120点以上
保健医療学部	看護学科	日本語 読解、聴解・聴読解 記述	200点以上 25点以上	数学 (コース1又は コース2) 120点以上 理科(2科目自由選択) 120点以上
	理学療法学科			
	作業療法学科			

(不明な点があれば、本学事務局学務課入試係に問い合わせしてください。)

3 入学者の選抜方法

次の項目の結果を総合して合格者を決定します。

学部	選抜方法
医学部	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日本留学試験の成績 ・ 本学医学部が行う一般選抜(前期日程)の第2次試験(個別学力検査・個人面接) ・ 出願書類の審査
保健医療学部	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日本留学試験の成績 ・ 個人面接 ・ 出願書類の審査

(注1) 個別学力検査の出題言語は日本語です。個人面接は日本語で行います。

(注2) 面接により医療人となるための適性を欠くと判断された場合は、成績に関わらず、不合格になる場合があります。

4 身体等に障害のある入学志願者との事前相談

本学への入学志願者で、次表に該当する場合(学校教育法施行令第22条の3に準拠)は、受験上及び修学上の配慮が必要となることがありますので、令和5年11月17日(金)までに必ず本学事務局学務課入試係に電話等で問い合わせしてください。

必要に応じ、本学において、原則入学志願者及び保護者、又はその立場を代弁しうる者等との面談を行います。

- | | |
|---|---|
| ア | 両眼の矯正視力が0.3未満の者又は視力以外の視機能障害が高度の者のうち、拡大鏡等の使用によっても通常の文字、図形等の視覚による認識が不可能又は著しく困難な程度の者 |
| イ | 両耳の聴力レベルが60デシベル以上の者のうち、補聴器等の使用によっても通常の話声を解することが不可能又は著しく困難な程度の者 |
| ウ | 肢体(上肢・体幹・下肢)不自由の状態により、立位もしくは座位の保持又は歩行することが不可能又は困難な者 |
| エ | 肢体(上肢・体幹・下肢)不自由の状態により、筆記又は実験・実習をすることが不可能又は困難な者 |
| オ | 慢性の呼吸器、心臓、腎臓疾患等の状態が継続して医療・生活規制を必要とする程度の者又はこれに準ずる者 |
| カ | 身体虚弱の状態が継続して生活規制を必要とする程度の者 |
| キ | 上記以外で、受験上、修学上特別の配慮を必要とする程度の機能障害を有する者 |

問い合わせ先

札幌医科大学事務局学務課入試係 電話011-611-2111(内線21830・21840)

5 日程

項目	医学部・保健医療学部
学生募集要項配布開始	令和5年10月下旬(予定)
出 願 日	令和6年1月22日(月)～1月31日(水) ※出願最終日の受付は17:00必着とします
試 験 日	令和6年2月25日(日)
合 格 発 表 日	令和6年3月8日(金)

6 学生募集要項の請求先及び請求方法

(1) 本学で配布

上記の学生募集要項配布開始日から出願受付終了日までの間、次により配布します。

・事務局学務課入試係 8:45～17:30(土・日・祝日を除く。)

(2) 郵便による請求

請求用封筒の表に「**私費外国人留学生入試 学生募集要項請求**」と朱書き、**返信用封筒同封**の上、請求してください。また、大学案内も希望する場合は、「大学案内請求」と、併記してください。

返信用封筒は、

・角形2号(A4判の冊子が折らずに入る大きさ)とし、表面に請求者の住所、氏名、郵便番号を明記してください。

・**返信先が日本国内の場合**は、学生募集要項のみの場合は**140円**、大学案内も希望の場合は**390円**分の切手を貼ってください。

・**返信先が日本国外の場合**は、**航空便500g料金相当の国際返信切手券を同封**してください。

(請求先)〒060-8556 札幌市中央区南1条西17丁目 札幌医科大学事務局学務課入試係

7 入試過去問題の活用

ア 本学は、アドミッション・ポリシーを実現するため、必要な範囲において、「入試過去問題活用宣言」に参加している大学の入試過去問題を使用して出題することがあります。ただし、必ず使用するとは限りません。

イ 入試過去問題を使用する際は、そのまま使用することも、一部改変することもあります。

ウ 「入試過去問題活用宣言」の詳細及び参加大学の一覧については、次の URL にて公表しています。

<http://www.nyushikakomon.jp>

VII 令和7年度札幌医科大学入学者選抜における利用教科・科目について（予告）

（令和6年度入学者選抜からの変更点ではありませんので、ご注意ください）

1. 令和7年度大学入学共通テスト(令和7年1月実施)から新学習指導要領に対応した出題教科・科目に変更されることに伴い、本学の利用教科・科目及び配点については次のとおりとします。変更箇所下線。
 なお、旧教育課程履修者に対する経過措置として、新教育課程による出題科目・科目選択の方法に加え、旧教育課程から出題される科目を選択することができます。
 新教育課程履修者は、旧教育課程から出題される科目を選択解答することはできません。

○ 医学部医学科

1 一般選抜(一般枠、先進研修連携枠(ATOP-M)共通)

(1) 大学入学共通テストの受験を要する教科・科目等

教科	科目	科目の選択方法
国語	『国語』	必須
地理歴史・ 公民	『歴史総合、世界史探究』『歴史総合、日本史探究』『地理総合、地理探究』『地理総合、歴史総合、公共』『公共、倫理』『公共、政治・経済』 (旧教育課程履修者に対する措置) 『旧世界史B』『旧日本史B』『旧地理B』 『旧現代社会』『旧倫理』『旧政治・経済』『旧倫理、旧政治・経済』	(第1解答科目)(注1)
数学	『数学Ⅰ、数学A』 (旧教育課程履修者に対する措置) 『旧数学Ⅰ・旧数学A』	必須
	『数学Ⅱ、数学B、数学C』(注2) (旧教育課程履修者に対する措置) 『旧数学Ⅱ・旧数学B』『旧簿記・会計』『旧情報関係基礎』(注3)	必須
理科	『物理』『化学』『生物』	左記の3科目から2科目選択
外国語	『英語』『ドイツ語』『フランス語』『中国語』 『韓国語』	左記の5科目から1科目選択(英語はリスニングの成績も判定の対象とします)(注4)
情報	『情報Ⅰ』 (旧教育課程履修者に対する措置) 『旧情報(仮)』	必須

(注1) 地理歴史・公民から2科目を受験している場合は、第1解答科目の成績を採用します。

なお、地理歴史・公民における2科目の選択方法は、文部科学省の定めに従います。

(注2) 『数学Ⅱ、数学B、数学C』の出題範囲のうち、「数学B」及び「数学C」は、「数学B」の2項目の内容(数列、統計的な推測)及び「数学C」の2項目の内容(ベクトル、平面上の曲線と複素数平面)のうち3項目の内容の問題を選択解答してください。

(注3) 『旧簿記・会計』『旧情報関係基礎』を選択することができる者は、高等学校又は中等教育学校でこれらの科目を履修した者及び文部科学省の指定を受けた専修学校高等課程の学科の修了(見込み)者に

限ります。

(注4) 外国語で『英語』を選択する場合は、リーディング及びリスニングの両方を受験してください。ただし、リスニング受験免除者は、リーディングの点数を2倍にして200点満点に換算して成績とします。

(2) 教科の配点

ア 第1段階選抜に用いる大学入学共通テストの教科の配点

学科	国語	地理歴史 ・公民	数学	理科	外国語	情報Ⅰ	計
医学科	200	100	200	200	200※	<u>100</u>	<u>1,000</u>

※ 英語の場合、リーディング100点+リスニング100点=200点

ただし、リスニングを免除された者については、リーディングの得点を2倍します。

イ 第2段階選抜に用いる配点

日程	試験区分	国語	地理歴史 ・公民	数学	理科	外国語	情報Ⅰ	面接	計	総合点
前期 日程	大学入学 共通テスト	150	50	150	200	150	<u>50</u>	—	750	<u>1,550</u>
	第2次試験	—	—	200	200	200	<u>—</u>	<u>200</u>	<u>800</u>	

(注) 面接により医療人となるための適性を欠くと判断された場合は、第2次試験の成績に関わらず、不合格になる場合があります。

2 学校推薦型選抜

(1) 大学入学共通テストの受験を要する教科・科目等

教科	科目	科目の選択方法
国語	『国語』	必須
地理歴史・ 公民	『歴史総合、世界史探究』『歴史総合、日本史探究』『地理総合、地理探究』『地理総合、歴史総合、公共』『公共、倫理』『公共、政治・経済』 (旧教育課程履修者に対する措置) 「旧世界史B」「旧日本史B」「旧地理B」 「旧現代社会」「旧倫理」「旧政治・経済」 『旧倫理、旧政治・経済』	(第1解答科目)(注1)
数学	『数学Ⅰ、数学A』 (旧教育課程履修者に対する措置) 『旧数学Ⅰ・旧数学A』	必須
	『数学Ⅱ、数学B、数学C』(注2) (旧教育課程履修者に対する措置) 『旧数学Ⅱ・旧数学B』	必須
理科	『物理』『化学』『生物』	左記の3科目から2科目選択
外国語	『英語』『ドイツ語』『フランス語』『中国語』 『韓国語』	左記の5科目から1科目選択(英語はリスニングの成績も判定の対象とします)(注3)
情報	『情報Ⅰ』 (旧教育課程履修者に対する措置) 『旧情報(仮)』	必須

(注1) 地理歴史・公民から2科目を受験している場合は、第1解答科目の成績を採用します。

なお、地理歴史・公民における2科目の選択方法は、文部科学省の定めに倣います。

(注2) 『数学Ⅱ、数学B、数学C』の出題範囲のうち、「数学B」及び「数学C」は、「数学B」の2項目の内容(数列、統計的な推測)及び「数学C」の2項目の内容(ベクトル、平面上の曲線と複素数平面)のうち3項目の内容の問題を選択解答してください。

(注3) 外国語で『英語』を選択する場合は、リーディング及びリスニングの両方を受験してください。ただし、リスニング受験免除者は、リーディングの点数を2倍にして200点満点に換算して成績とします。

(2) 教科の配点

ア 先進研修連携枠(ATOP-M)

教科	国語	地理歴史・公民	数学	理科	外国語	情報Ⅰ	計
大学入学共通テスト	200	100	200	200	200※	<u>100</u>	<u>1,000</u>

※英語の場合、リーディング100点+リスニング100点=200点

ただし、リスニングを免除された者については、リーディングの得点を2倍します。

教科	総合問題	面接	大学入学共通テスト	計
第2次試験	400	400	400※	1,200

※大学入学共通テストは、総配点を400点に換算する。

(注) **大学入学共通テストの成績が、総配点 1,000 点中 775 点以上の者を入学候補者として選考の対象とします。**

(注) 面接により医療人となるための適性を欠くと判断された場合は、第2次試験の成績に関わらず、不合格になる場合があります。

イ 特別枠

教科	国語	地理歴史・公民	数学	理科	外国語	情報Ⅰ	計
大学入学共通テスト	200	100	200	200	200※	<u>100</u>	<u>1,000</u>

※ 英語の場合、リーディング100点+リスニング100点=200点

ただし、リスニングを免除された者については、リーディングの得点を2倍します。

教科	総合問題	面接	自己推薦書	大学入学共通テスト	計
第2次試験	400	400	100	400※	1,300

※大学入学共通テストは、総配点を400点に換算する。

(注) **大学入学共通テストの成績が、総配点 1,000 点中 775 点以上の者を入学候補者として選考の対象とします。**

ただし、大学入学共通テストの平均点が例年を大きく下回ることなどにより、上記による選考の結果、合格者が当該年度の医学部入学定員の臨時増員に満たない場合にあつては、第2次試験の成績が上位の者から臨時増員数の範囲内で選抜することを考慮します。

(注) 面接により医療人となるための適性を欠くと判断された場合は、第2次試験の成績に関わらず、不合格になる場合があります。

○ 保健医療学部

1 看護学科 一般選抜

(1) 大学入学共通テストの受験を要する教科・科目等

教科	科目	科目等の選択方法	
国語	『国語』	必須	
数学	『数学Ⅰ』『数学Ⅰ、数学A』 (旧教育課程履修者に対する措置) 『旧数学Ⅰ』『旧数学Ⅰ・旧数学A』から1科目選択	左記2科目から1科目選択	
	『数学Ⅱ、数学B、数学C』(注1) (旧教育課程履修者に対する措置) 『旧数学Ⅱ』『旧数学Ⅱ・旧数学B』『旧簿記・会計』『旧情報関係基礎』から1科目選択(注2)	必須	
外国語	『英語』『ドイツ語』『フランス語』『中国語』『韓国語』	左記5科目から1科目選択 (英語は、リスニングの成績も判定の対象とします)(注3)	
地理歴史・公民(注4)	『地理総合、地理探究』『歴史総合、日本史探究』『歴史総合、世界史探究』『地理総合、歴史総合、公共』『公共、倫理』『公共、政治・経済』 (旧教育課程履修者に対する措置) 『旧世界史B』『旧日本史B』『旧地理B』『旧現代社会』『旧倫理』『旧政治・経済』『旧倫理、旧政治・経済』から最大2科目選択(注5)	左記6科目から1科目選択	左記6科目から2科目選択(注6)
理科	『物理』『化学』『生物』	左記3科目から2科目選択	左記3科目から1科目選択 (同一科目名を含む選択不可)
	『物理基礎、化学基礎、生物基礎、地学基礎』(注7)	2科目選択 (同一科目名を含む選択不可)	2科目選択
情報	『情報Ⅰ』 (旧教育課程履修者に対する措置) 『旧情報(仮)』	必須	

(注1) 『数学Ⅱ、数学B、数学C』の出題範囲のうち、「数学B」及び「数学C」は、「数学B」の2項目の内容(数列、統計的な推測)及び「数学C」の2項目の内容(ベクトル、平面上の曲線と複素数平面)のうち3項目の内容の問題を選択解答してください。

【令和7年度入学者選抜予告】

- (注2) 『旧簿記・会計』『旧情報関係基礎』を選択することができる者は、高等学校又は中等教育学校でこれらの科目を履修した者及び文部科学大臣の指定を受けた専修学校高等課程の学科修了(見込み)者に限ります。
- (注3) 外国語で『英語』を選択する場合は、リーディング及びリスニングの両方を受験してください。ただし、リスニング受験免除者は、リーディングの点数を2倍にして200点満点に換算して成績とします。
- (注4) 指定した科目数以上受験した場合は、地理歴史・公民の第1解答科目、残りの科目(理科の「基礎を付した2科目」を含む)のうち得点の高い科目2科目を合否判定の資料として用います。
- (注5) 旧教育課程履修者に対する措置として「旧」のつく、地理歴史・公民を2科目選択する場合、同一科目名を含む選択はできません。
- (注6) 地理歴史・公民における2科目の選択方法は、文部科学省の定めに倣います。
- (注7) 『物理基礎、化学基礎、生物基礎、地学基礎』については地学基礎を除いた3科目中2科目を選択解答してください。

(2) 教科の配点

ア 第1段階選抜に用いる大学入学共通テストの教科の配点

学科	国語	地理歴史 ・公民		理科	数学	外国語	情報Ⅰ	計
看護学科	200	100	100	100	200	200※	100	1,000

※ 英語の場合、リーディング 100点＋リスニング 100点＝200点
ただし、リスニングを免除された者については、リーディングの得点を2倍します。

イ 第2段階選抜に用いる配点

日程	試験区分	国語	地理歴史 ・公民		理科	数学	外国語	情報Ⅰ	面接	計	計
前期 日程	大学入学 共通テスト	180	90	90	90	180	180	90	—	900	1,100
	第2次 試験	—	—	—	—	—	—	—	200	200	

(注) 面接により医療人となるための適性を欠くと判断された場合は、第2次試験の成績に関わらず、不合格になる場合があります。

2 看護学科 学校推薦型選抜

(1) 大学入学共通テストの受験を要する教科・科目等

教科	科目	科目等の選択方法
国語	『国語』	必須
地理歴史・ 公民	『地理総合、地理探究』『歴史総合、日本史探究』『歴史総合、世界史探究』 (旧教育課程履修者に対する措置) 「旧世界史B」「旧日本史B」「旧地理B」	左記の14科目から1科目選択 (注3)
	『地理総合、歴史総合、公共』『公共、倫理』『公共、政治・経済』 (旧教育課程履修者に対する措置) 「旧現代社会」「旧倫理」「旧政治・経済」、『旧倫理、旧政治・経済』	
数学	『数学Ⅰ』『数学Ⅰ・数学A』『数学Ⅱ、数学B、数学C』(注1) (旧教育課程履修者に対する措置) 「旧数学Ⅰ」「旧数学Ⅰ・旧数学A』『旧数学Ⅱ・旧数学B』	
理科	『物理』『化学』『生物』 『物理基礎、化学基礎、生物基礎、地学基礎』(注2)	
情報	『情報Ⅰ』 (旧教育課程履修者に対する措置) 『旧情報(仮)』	
外国語	『英語』	

(注1) 『数学Ⅱ、数学B、数学C』の出題範囲のうち、「数学B」及び「数学C」は、「数学B」の2項目の内容(数列、統計的な推測)及び「数学C」の2項目の内容(ベクトル、平面上の曲線と複素数平面)のうち3項目の内容の問題を選択解答してください。

(注2) 『物理基礎、化学基礎、生物基礎、地学基礎』については地学基礎を除いた3科目中2科目選択を選択解答してください。

(注3) 指定した科目数以上受験した場合は、地理歴史・公民及び理科の第1解答科目、理科の「基礎を付した2科目」、数学並びに情報の解答科目のうち、得点から全国平均点を差引いた値が最も大きい科目を用いて合否判定を行います。

(2) 教科の配点

変更ありません。

3 理学療法学科 一般選抜

(1) 大学入学共通テストの受験を要する教科・科目等

教科	科目	科目等の選択方法	
国 語	『国語』	必須	
数 学	『数学Ⅰ』『数学Ⅰ、数学A』 (旧教育課程履修者に対する措置) 「旧数学Ⅰ」「旧数学Ⅰ・旧数学A」か ら1科目選択	左記2科目から1科目選択	
	『数学Ⅱ、数学B、数学C』(注1) (旧教育課程履修者に対する措置) 『旧数学Ⅱ』『旧数学Ⅱ・旧数学B』『旧 簿記・会計』『旧情報関係基礎』から1 科目選択(注2)	必須	
外 国 語	『英語』『ドイツ語』『フランス語』『中国 語』『韓国語』	左記5科目から1科目選択 (英語は、リスニングの成績も判定の対象とします)(注3)	
地理歴 史・公民	『地理総合、地理探究』『歴史総合、日 本史探究』『歴史総合、世界史探究』 『地理総合、歴史総合、公共』『公共、 倫理』『公共、政治・経済』 (旧教育課程履修者に対する措置) 「旧世界史B」「旧日本史B」「旧地理 B」「旧現代社会」「旧倫理」「旧政治・ 経済』『旧倫理、旧政治・経済』	左記6科目から1科目選択(注4)	
理 科	『物理』『化学』『生物』	左記3科目から2科目選択	左記3科目から1科目選択 (同一科目名を含む選択不可)
	『物理基礎、化学基礎、生物基礎、地 学基礎』(注5)		左記科目から2科目選択 (同一科目名を含む選択不可)
情 報	『情報Ⅰ』 (旧教育課程履修者に対する措置) 『旧情報(仮)』	必須	

(注1) 『数学Ⅱ、数学B、数学C』の出題範囲のうち、「数学B」及び「数学C」は、「数学B」の2項目の内容(数列、統計的な推測)及び「数学C」の2項目の内容(ベクトル、平面上の曲線と複素数平面)のうち3項目の内容の問題を選択解答してください。

(注2) 『旧簿記・会計』『旧情報関係基礎』を選択することができる者は、高等学校又は中等教育学校でこれらの科目を履修した者及び文部科学大臣の指定を受けた専修学校高等課程の学科修了(見込み)者に限ります。

(注3) 外国語で『英語』を選択する場合は、リーディング及びリスニングの両方を受験してください。ただし、リスニング受験免除者は、リーディングの点数を2倍にして200点満点に換算して成績とします。

(注4) 第1解答科目を合否判定に用います。

(注5) 『物理基礎、化学基礎、生物基礎、地学基礎』については地学基礎を除いた3科目中2科目を選択解答してください。

(2) 教科の配点

ア 第1段階選抜に用いる大学入学共通テストの教科の配点

学科	国語	地理歴史・公民	理科	数学	外国語	情報Ⅰ	計
理学療法学科	200	100	200	200	200※	100	1,000

※ 英語の場合、リーディング 100 点+リスニング 100 点=200 点
ただし、リスニングを免除された者については、リーディングの得点を2倍します。

イ 第2段階選抜に用いる配点

日程	試験区分	国語	地理歴史・公民	理科	数学	外国語	情報Ⅰ	面接	小計	合計
前期日程	大学入学共通テスト	180	90	180	180	180	90	—	900	1,100
	第2次試験	—	—	—	—	—	—	200	200	

(注) 面接により医療人となるための適性を欠くと判断された場合は、第2次試験の成績に関わらず、不合格になる場合があります。

4 理学療法学科 学校推薦型選抜

(1) 大学入学共通テストの受験を要する教科・科目等

教科	科目	科目等の選択方法
国語	『国語』	左記 6 科目から 2 科目選択
数学	『数学Ⅰ』『数学Ⅰ、数学A』 (旧教育課程履修者に対する措置)	
	『旧数学Ⅰ』『旧数学Ⅰ・旧数学A』	
理科	『物理』『化学』『生物』	
外国語	『英語』	必須(リスニングの成績も判定の対象とします)

※「情報Ⅰ」は受験科目に入れません。

(2) 教科の配点

変更ありません。

5 作業療法学科 一般選抜

(1) 大学入学共通テストの受験を要する教科・科目等

教科	科目	科目等の選択方法	
国語	『国語』	必須	
数学	『数学Ⅰ』『数学Ⅰ、数学A』 (旧教育課程履修者に対する措置) 『旧数学Ⅰ』『旧数学Ⅰ・旧数学A』から 1科目選択	左記2科目から1科目選択	
	『数学Ⅱ、数学B、数学C』(注1) (旧教育課程履修者に対する措置) 『旧数学Ⅱ』『旧数学Ⅱ・旧数学B』『旧 簿記・会計』『旧情報関係基礎』から1 科目選択(注2)	必須	
外国語	『英語』『ドイツ語』『フランス語』『中国 語』『韓国語』	左記5科目から1科目選択 (英語は、リスニングの成績も判定の対象とします)(注3)	
地理歴史・ 公民 (注4)	『地理総合、地理探究』『歴史総合、日 本史探究』『歴史総合、世界史探究』 『地理総合、歴史総合、公共』『公共、倫 理』『公共、政治・経済』 (旧教育課程履修者に対する措置) 『旧世界史B』『旧日本史B』『旧地理 B』『旧現代社会』『旧倫理』『旧政治・経 済』『旧倫理、旧政治・経済』	左記6科目から1科目選択 左記6科目から2科目選 択(注5)	
理科 (注4)	『物理』『化学』『生物』	左記3科目か ら2科目選択	左記3科目から1科 目選択 (同一科目名を含む 選択不可)
	『物理基礎、化学基礎、生物基礎、地 学基礎』(注6)		左記科目から2科目 選択 (同一科目名を含む 選択不可)
情報	『情報Ⅰ』 (旧教育課程履修者に対する措置) 『旧情報(仮)』	必須	

(注1)『数学Ⅱ、数学B、数学C』の出題範囲のうち、「数学B」及び「数学C」は、「数学B」の2項目の内容(数列、統計的な推測)及び「数学C」の2項目の内容(ベクトル、平面上の曲線と複素数平面)のうち3項目の内容の問題を選択解答してください。

(注2)『旧簿記・会計』『旧情報関係基礎』を選択することができる者は、高等学校又は中等教育学校でこれらの科目を履修した者及び文部科学大臣の指定を受けた専修学校高等課程の学科修了(見込み)者に限りません。

(注3)外国語で『英語』を選択する場合は、リーディング及びリスニングの両方を受験してください。ただし、リスニング受験免除者は、リーディングの点数を2倍にして200点満点に換算して成績とします。

(注4)指定した科目数以上受験した場合は、地理歴史・公民の第1解答科目、残りの科目(理科の「基礎を付した2科目」を含む)のうち、上記に示した3つの選択方法のいずれかを満たす組み合わせから得点の高い科目

2科目を合否判定の資料として用います。

(注5) 地理歴史・公民における2科目の選択方法は、文部科学省の定めに倣います。

(注6) 『物理基礎、化学基礎、生物基礎、地学基礎』については地学基礎を除いた3科目中2科目を選択解答してください。

(2) 教科の配点

ア 第1段階選抜に用いる大学入学共通テストの教科の配点

学科	国語	地理歴史 ・公民	理科	数学	外国語	情報Ⅰ	計
作業療法学科	200	100	100	100	200	200※	<u>100</u> <u>1,000</u>

※ 英語の場合、リーディング100点＋リスニング100点＝200点

ただし、リスニングを免除された者については、リーディングの得点を2倍します。

イ 第2段階選抜に用いる配点

日程	試験区分	国語	地理歴史 ・公民	理科	数学	外国語	情報Ⅰ	面接	小計	合計
前期 日程	大学入学 共通テスト	<u>180</u>	<u>90</u>	<u>90</u>	<u>90</u>	<u>180</u>	<u>90</u>	—	900	1,100
	第2次 試験	—	—	—	—	—	—	200	200	

(注) 面接により医療人となるための適性を欠くと判断された場合は、第2次試験の成績に関わらず、不合格になる場合があります。

6 作業療法学科 学校推薦型選抜

(1) 大学入学共通テストの受験を要する教科・科目等

教科	科目	科目等の選択方法
国語	『国語』	必須
数学	『数学Ⅰ』『数学Ⅰ、数学A』 (旧教育課程履修者に対する措置) 『旧数学Ⅰ』『旧数学Ⅰ・旧数学A』	左記2科目から1科目選択
外国語	『英語』	必須(リスニングの成績も判定の対象とします)

※「情報Ⅰ」は受験科目に入れません。

(2) 教科の配点

変更ありません。

2. その他

医学部一般選抜第2次試験の科目の出題範囲については検討中です。決定した内容は本学ホームページにてお知らせします。

なお、内容は現時点のものであり、今後引き続き検討を加えた結果、変更することがありますので本学からの発表にご注意ください。

問い合わせ先

〒060-8556 札幌市中央区南1条西17丁目

札幌医科大学事務局学務課入試係

電話 011-611-2111(内線21830・21840)

*** 8:45～17:30(土・日・祝日を除く。)**

*** 問い合わせは、やむを得ない場合を除き入学志願者本人が行ってください。**